はしがき

「不易流行」は新しい俳諧への模索過程で芭蕉が用いた理念であるが，1980年代半ばの臨時教育審議会もまた答申の上でこの理念を採用した。すなわち教育変革に臨んでは，時代をこえて変わらないもの（不易）と，時代とともに変化していくもの（流行）の統一が常に念頭に置かれるべきであり，「前者のみに固執すれば，教育は独断，硬直に陥り，後者のみに流されれば，教育は軽佻浮薄に堕するであろう」と述べて，両者の統合的把握の重要性を訴えている（第二次答申）。

この考え方は今日の教育変革において，いっそう必要であろう。グローバリゼーションの名の下に変革と競争を求める動向が全世界を覆い，わが国においても，経済界や政界にとどまらず教育界にもこの動向が及びつつある。特色ある学校，学社連携，説明責任，規制緩和，学校週五日制，総合的学習，基礎学力の保持，キャリア教育といったキー概念の下に，矢継ぎ早な学校変革が求められ，各校種の学校で懸命な取り組みが展開されている。まさに教育における一大「流行」の時代である。しかし時代的要請に応える変革が強まれば強まるほど，不変かつ普遍なる「不易」への情熱も深めなければなるまい。

本書は小冊子ながら，こうした時代的要請に応えて，教育学上の広範な分野にわたって，その不変的・基礎的部分と今日的・変革的な部分を簡潔に，平易に著すことをめざして編集されたものである。教職への道を志す学生の学習整理に資するだけでなく，教育現場で展開される実践の下支えとしても役立つことを願っている。

最後に，編集に際して払われた法律文化社浜上知子編集員の労に謝したい。

2005年11月

編　者

第２版はしがき

本書の2005年の初版からわずか３年未満の間に，教育界は改革の大波を２度も受けることとなった。第１波は教育基本法の改正・施行（2006年12月）とそれにともなう関連法規の改正や教員免許更新制の導入等であり，第２波は，中央教育審議会答申（2008年１月）とそれにともなう学習指導要領の改訂である。変革が部分的調整の域を超えているため今般版を改め，時代への対応を図ることとした。初版同様各位への役立ちを願っている。

2008年８月

編　　者